

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 049	提案機関名 小坪漁業協同組合
要望問題名 磯焼けで枯渇しているアカモクとヒジキの種苗生産と増養殖技術開発について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 当漁協では、12年前より水産技術センター普及指導員の指導を受けて、アカモク製品化・直売をしてきましたが、海水温上昇や磯焼けの進行に伴い、地先のアカモク資源が枯渇しております。また、4年より組合員の収入源であった、ヒジキも同様に減少が著しい状況です。 そこで、アカモクやヒジキの増養殖を試みるべく、その種苗生産と増養殖技術開発をお願いします。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考 冬場のワカメ養殖は、三浦半島地区の漁業者の多くが営み、魚閑期の重要な収入源となっております。	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 藻場再生技術高度化試験			
対応の内容等 当センターでは藻場再生技術高度化試験において、アカモクの種苗生産を実施しています。当センターが生産したアカモク種苗を横浜市、逗子市、三浦市及び小田原市の漁協に供給し、各地においてはワカメ養殖に用いる既存の資材を有効活用してアカモクの養殖試験に取り組んでいます。今後も各地の要望を取り入れ、アカモク種苗を養殖試験に供給して参ります。ヒジキについては令和5年度から種苗生産に着手しました。現在、量産に向けて技術開発を進めており、量産化に成功した際には養殖試験用にヒジキの種苗の供給を計画しております。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			